

2025 年度 第 1 回 亀田医療技術専門学校 教育課程編成委員会議事録

日時：令和 7 年 6 月 23 日（月） 15：00～16：30

場所：亀田医療技術専門学校 2 号館 3 階 301 教室

出席者

教育課程編成委員

- ・鴨川市市民福祉部長 鈴木 克己
- ・亀田総合病院看護管理部副部長 安田 友恵
- ・千葉県看護協会安房地区部会役員 栗田 みよ子

専門学校教職員

- ・学校長 大塚 伊佐夫
- ・副学校長 吉田 広美
- ・看護学科教育主任 関根 恵子
- ・看護学科教育副主任 新井 淳子

敬称略

司会：吉田副学校長 書記：片桐

委員会次第

1. 開会、資料確認

吉田副学校長が司会を務め、資料の有無を確認。

2. 出席者の確認

看護協会安房地区部会の役員交代のため、今回限りで栗田委員の退任が報告された。残任期間は新しく役員に就く、影山ユウ子氏が務める予定。

3. 大塚学校長挨拶

今回の議題に触れ「受験者数の減少により入学学生の取捨選択が難しい。そのため国家試験合格や学力向上に向け多くの方に頑張ってもらっているのが実情である。より良い教育等のため様々なご意見をお願いしたい」と述べた。

4. 学力向上に向けた学習支援の取り組み<報告>（資料）

1) 学習支援対策のあゆみ

・基礎学力の低下がみられるようになり、2019（令和元年）から入学前教育プログラム、入学後の「学習意欲と基礎学力を測る調査（基礎学力テスト・アンケート）」＊以後基礎力リサーチとする（4・9 月に実施）を開始する。 ※業者は株式会社進研アド（入学前教育については任意の受講）

・2023（令和 5）年から基礎学力テストで 50 点以下の学生を対象に個別での学習支援を

開始した。

→結果、学習支援を受けた学生の成績上昇がみられ、学生からの評価も高かった。しかし、支援を受けない学生の中に退学者・留年者が多くおり、範囲を広げる必要性を学科内で共有した。

・2024（令和6）年から基礎力リサーチ（基礎学力テスト・アンケート）で判定されたタイプ2・4の学生を対象に学習支援を実施することにした。

タイプ2 成績が平均点以下で、学習意欲はあるが成果に結びつかない

タイプ4 成績が平均点以下で、学習意欲も低く成績も低調

2) 入学前教育プログラムの概要

内容 看護学科コース、全3回の課題提出、専門分野の現場を意識ながら基礎学力の重要性に気づくコンテンツ

対象 推薦選考、社会人A/B選考、一般A選考の合格者（任意受講）。

- ・47期生（現1年生）の受講者は49人中、21人であった。昨年度までは入学者の70～80%が受講していたが、今年度は48%と減少した。
- ・受講した学生の55%が高校入学前から看護師を目指し、受講したことによって受講者全員が意欲をもって入学している（アンケート結果による）。

3) 基礎力リサーチ（スキルテスト・アンケート）の概要

内容 学生の基礎学力、学習習慣、学習意欲の実態把握が可能なアセスメント

メリット ①アセスメント結果が学生との面談材料に効果的

②全国データと比較できるので指導方針が検討できる

③学年全体・学生個人の成長を可視化、教育の質向上に活用

・47期生の基礎力リサーチ結果（4月実施）

平均点 64.7 点（全国平均 66.2 点）→ 低得点と高得点の2極化傾向にあることが見て取れた

・アンケートによるタイプ分け

タイプ1 学習意欲が学力に表れており、バランスが取れている

タイプ2 学習意欲は高いが成績が伴わない

タイプ3 学力は高いが意思が弱く流されやすく、意欲低下により成績が下がりやすい

タイプ4 学習意欲も低く学力も低い。退学者が出るリスクが最も高い

※47期の学習支援対象者（タイプ2（10人）・4（15人））の合計は25人

・タイプ別による留年者・退学者について

留年者の多くはタイプ2・4に存在。以前は50点以下の学生を学習支援の対象としていたが、多くの学生を支援するために、タイプ2・4の学生を対象とすることに変更した。

・学習支援のポイント

基礎学力、学習方策、学習習慣、モチベーションについて、学生ごとに支援していく。

4) 学習支援評価

・学習支援を受けた学生の評価

→支援を積極的に受けられた（46期生1年次100%、45期生2年次66%）、支援を受けてよかったが9割以上、学習時間の増加

・学習支援を振り返って

→入学初期からの支援が必要、タイプ2・4でも認定試験の点数は上げられる

令和7年度の学習支援（26名）の取り組み

目的：学生が自立して学習がすすめられるよう支援する

目標（学生）：学習意欲の維持、学習習慣をつける、学習方策を身につける

方法：基礎力リサーチの1回目のタイプ2・4の学生を対象

支援担当教員は1、3年次生担当教員8名で行う

※後期は前期の認定試験結果、基礎力リサーチ2回目の結果で改めて選出

支援内容：①学習計画が立てられるよう支援する

②日々の学習の復習をためないよう支援する

③授業内容を、繰り返し復習できるノートにまとめられるよう支援する

④ノートや資料が、振り返りやすいようにまとめるよう支援する

⑤学習について相談にのる

・学習支援を通して見えたこと

▶指導の効果

学習時間の確保－計画を意識することで学習時間を確保し、学習時間が増加した

学習状況の把握－学生の傾向がわかる、コミュニケーションが図りやすい

学習に対する危機感－危機感を持つことで学習意欲が上がる、目標を設定し振り返ることで自立学習につながる

▶指導の上の課題

ノート作りができない－ノートを作る経験がなく、タブレットを眺める学習、学習方策を考える土台がない

スケジュール管理ができない－1週間先を想像できず日常に追われる、試験間近に学習が集中する

学習方法の評価や修正ができない－学習の振り返りができない、結果に嘆いて改善策を考えられない

参加しない学生・定着しない学生－危機感がない、自分は周りと同じと思っている

5. 討議

- ・入学前学習を受講していない学生へのアンケートは実施していないのか。（大塚学校長）
- ・現状実施していない。（関根教育主任）
- ・大学、専門等で受講者の平均点に大きな差はないようである。（大塚学校長）
- ・学習支援は教員が実施しているのか。（安田委員）
- ・1年、3年生を担当している教員8名で対応している。（関根教育主任）
- ・その学習支援、面談の時間を先生方はいつ捻出しているのか。（安田委員）
- ・放課後、昼休み、自己学習の時間などを利用している。（新井教育副主任）

- ・テスト等で良い結果が出れば、学生自身も内発的にやる気がでる。 (関根教育主任)
- ・支援方法は教員によって違うのか。 (安田委員)
- ・基本的にやっていることは学びの振り返りで、それをノートにまとめさせているが、指導の仕方が違って来る。また課題の提出頻度などが教員によって異なる。 (関根教育主任)
- ・どういう勉強法がよい方法なのか、それについて業者から指導があるのか。 (安田委員)
- ・学習支援を受けている人と受けてない人で大きな差はあるのか。 (栗田委員)
- ・業者からの提案・指導はないので、学校側で考えて行っている。やらないことには始まらないので、目標と支援内容の統一は担当者間で図り行っている。 (関根教育主任)
- ・スケジュール帳を作成とあったが決まりはあるのか。 (吉田副学校長)
- ・特に決まりはなくスケジュール管理を目的としている。1週間の目標と学習計画を立てさせて計画的に学習をさせている。 (関根教育主任)
- ・効果的な学習方法とは何か？昔は書き取ることが重要とされていたが、今は違うのか？ (安田委員)
- ・現段階ではノート作りをさせている。学生はただ書き写しているだけなので、内容を深めるために、他のものをつなげていけるような指導をしている。指導を重ねノート作りの変化はみられる。要点をとらえ、つなげていくことで試験の結果にも出やすい。まとめ方が伸びた学生もいる。 (関根教育主任)
- ・学習支援の目的は調べ学習を行い、他の教科とつなげる思考を持たせるということか。 (安田委員)
- ・レポートのような文章を書かせる課題はあるのか？ (大塚学校長)
- ・教科科目の中で評価方法がレポート課題の科目もある。 (関根教育主任)
- ・チャット GPT を使用する学生はいないのか？ またその判断はどうしているのか。 (安田委員)
- ・3年生の実習記録の中で使用している学生がいると感じる。同じ文章であったり、この学生がこんな言葉を使い、こんな文章を書くかなと考える。 (新井教育副主任)
- ・その場合の評価はどのように行うのか。 (安田委員)
- ・口頭で質問を行い判断している。 (新井教育副主任)
- ・学生は文章を書き、提出することを目的としてチャット GPT を使っているので、患者様の情報が記載されてないこともある。 (関根教育主任)
- ・学校内でのチャット GPT 使用に関する規約や利用規制を出しているわけではないので、現状での使用規制は難しい。 (吉田副学校長)
- ・入学前教育プログラムについては多くの人に受けてもらいたいと考える。受講者数を増やすことが課題である。 (吉田副学校長)
- ・費用は誰が支払っているのか。 (栗田委員)
- ・任意の受講なので本人負担となる。 (吉田副学校長)
- ・どのくらいの時間を要する内容なのか。 (大塚学校長)
- ・1ユニット 20 分ほどで 1 回に 8 ユニットある。それを 3 回提出する。 (関根教育主任)
- ・推薦等で早く決まってしまうと入学まで時間が空いてしまうので、勉強習慣をつけてほしいという願いもあって実施している。入学前から学生の学力を維持させるためにも必要だと考えている。 (吉田副学校長)

・取り組みについて保護者などには説明しているのか。(安田委員)

・合格書類の中に案内文・申込書を入れている。またオープンキャンパスなどで説明し、サポート体制があることを伝えている。(新井教育副主任)

・保護者の中には入学までの間に宿題を出して欲しいと考えている人もいるのではないのか。(大塚学校長)

・今年の1年生は放課後に勉強している学生が多くみられる。また社会人が率先して行い、新卒生を引っ張っているとも聞く。助産学科も昼休みや放課後に授業のことや実習のことを話している。相互作用がはたらき、いい方向に向いていると感じる。(吉田副学校長)

・入試の傾向によってタイプが違うのか？どのような人が受講しているかなど、入試形態別で判断できるという。また3回必ず提出しなければいけないのか。(大塚学校長)

・3回提出して欲しいが、1回、2回で提出をやめてしまう人もいる。(新井教育副主任)

・入試の選考が遅くなるほど、受験生の学力が下がるのではないかというイメージがある。(吉田副学校長)

・大学入試後に受験をする学生もいるので学力が低いとは一概には言えない。(新井教育副主任)

・個人の評定値は低いが、高校自体の偏差値が高い学生もいる。(関根教育副主任)

・志を持っている子が通っているとは思いますが、学力を上げていくのは大変なことだと考える。(鈴木委員)

・留年、退学を出してしまうことは学校には不利益であるが、早い段階で学生の適性を判断できたと思えば良い面とも考えられる。(吉田副学校長)

・退学、留年しないことが重要ではあるが、国家試験に合格することが最大の目的ではないのか。(栗田委員)

・基礎力が低い学生は学年が上がっても低学力層で推移していることが多い。(関根教育主任)

・助産学科も同じで成績が低い学生は最後まで低く、振り返れば入試成績も低めの学生が多い。(吉田副学校長)

・学力ベースを上げるのも大事だが、国試合格を目標にするなら合格するためのスキルを上げなければいけない。(吉田副学校長)

・過去問を何度も解けば合格できる。(大塚学校長)

・状況設定問題があるので国語力が必要になってくる。(吉田副学校長)

・最近の学生は問題の文中の言葉・単語がわからないという。国試受験以前の問題で知識不足がみられる。(大塚学校長)

・学習支援について、どのような学習の仕方がベストなのか。(安田委員)

・教員ごとのグループで行っている、教員同士で支援方法等を共有し、学習成果が出せればよい。(吉田副学校長)

・学習の動機づけ(発見、探求、気づき)ができれば、自ら学ぶ姿勢を持つのではないのか。(安田委員)

・こうなりたいというモデルがある学生は、そうなりたいと自ら勉強をする。そのため病院で働く先輩に話をしてもらうことで、学ぶきっかけをつかむのではないのか。(吉田副学校長)

・平均点で分けると、支援対象の学生が多くなる。その場合、教員に係る負担が大きくなる

のではないか。

(大塚学校長)

・今後の課題として、入学前教育プログラムの受講者を増やす、学習支援をする教員間で成果を共有し、効果をみていく。

(吉田副学校長)

7. 今後の予定

次回の会議予定 令和7年11月18日(火) 15時から16時30分
 亀田医療技術専門学校 2号館3階 301教室